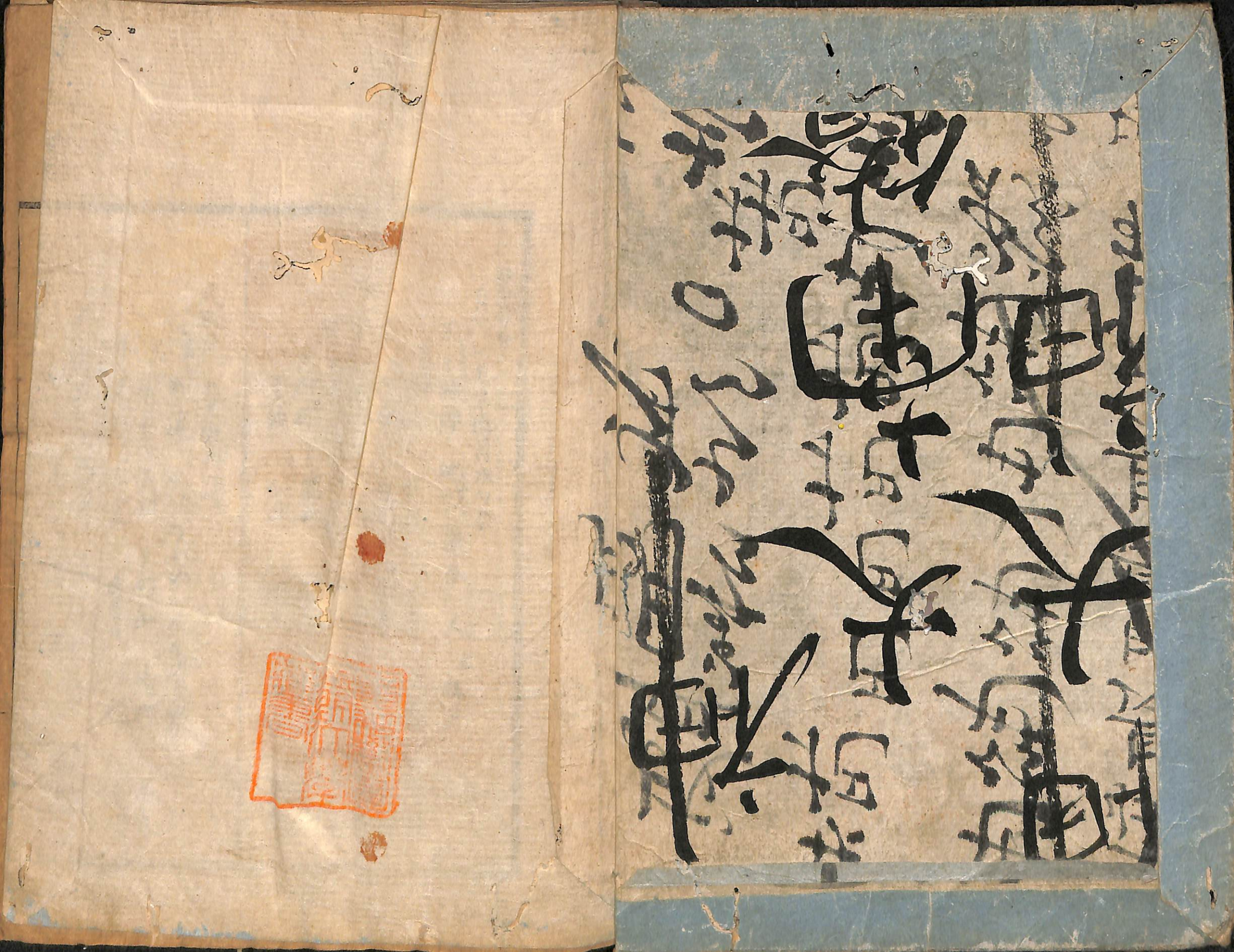
911.3
ゲン

表三



四月分

月次句合

天神願神　地祇亀乗　人左林夕

里秋、里月、千尋、川曉、仏、水鶏

番、次歌句、家酔、静寧、駿台、花蹊、省我

十抱松、二、可長寿、二風、十六、十六

外、二千里、二千里、松林、夕焉、小松

十桃磯、二、蓋武、壁人共、佐夜、田鶴

、千流、仙水、佐人、真山、至明

尺木堂若宗匠内評

天地雨道　地祇の子女　人天僕

十三位　陽中天星剣　天祖山　茂枝　九九

外二、仮寄、玉芝、豊寄、一風、素頃

入板中　古石寄子

出家　隆房　公石

五点之部　花位下毛

、虹の橋れ消くぬ中うし晴る月　上ヶ藤橋　呂芳　テ

けら集に有
杜宇啼くや木の芽を揚る月　武中谷　黎川　テ

、
和らき流ひの精に光つて秋を揚る
更衣
蛙ゟよ秋つの如とする
涼しさのちらされ走るや雲の稀　上サ下永吉　静寧　テ

サ
待くるんてやき咲る霧の射る枝
すりとりに法名のれで於る梢の葉　浅アコ　梧雲　テ

十
子子子ひ傍ら也不気貧乏の揺柳井戸
昔の松ろ(し)し滝の音や一名花　酉雀　テ

、
草茶しそ月影さん落し
昼の茶は畑に畳き石洗う竈　お山田　佳扇　テ

、
月涼し風ある青田の向より
蓮ハツの葉よりかしそするる光　スンフ　泥姆　佐渡泉
、
酌しけ数ゟいさねりて流戸漏
水手ゟ目の眼を見る西向之所の冠　伽藍主木　隣弟
、笠舎
涼塗のおちくもの咲る郷　押川
、
おとおし雨に濡るる柳かな
風の吹きありに流るる柳かな　一中　公林

元

、
凉しき雨は古林の空をたゞよいし　南中
初青しと白まおさふす暗る　下サ小塩田　孫竜
、
湖まし若葉に見る田上山　三テ
、
雨そつの姑松小雀の月影か　テ
おりしろき出るつつ世の旅　梢寒
、
拾光て秋のカのゆるぎ花　一和田男　田孫
、
あしなとも明りするむらにかな　寿せ哉
、
山吹そとれそろりむく蕗ひ　一十本　琴松
、
あさきくもくし此少妹や宗子あ　下谷　古蹊
、
初宴の川沙しろや雨とりますわ　テ
、
はしろ梅すきの三日月の茶わかり　三テ
、
も萩の香よ登りわり小夜かな　ワテ
、
鶴萩の夏嘆く余りす帝刹
、
雨ちも花葉の匂ふす枕かな　五テ
、
押送る舩と一二や神恵奥　六テ
、
稲刈のまゝ晴に沢城し蓮子哉　七テ
、
例は勤も読の色挿す神箭子
、
涼し●さや出りよちさすてふの泉　下六十九歳　貞松
、
植付そ田面めそつ夜さそ来る　抱雲
、
すし切や舟の屋形ゞ夕けり　テ

[illegible]

隙に　子秋　琴路女

秋波　里秋

稔吉　柳外　秋白

扇助　貪布　素堂

信促　宗牛　信阿

[illegible]

千里　秋河　二風　千里　白風　虚子　仙スサカ　去ケエヨカ　素丸　湖水　清滝

涼しさや枕の下をゆくの音　竹彩
遊涼しやすゞみや蛇相蝶　凹雨
涼しさの夜あけ／＼と遊びけり　半山　鉄入道　亀示
ありあけ寄し行側町や江の南　テ
蛍の数乃星夕を持る気色　テ
夕立やいつあすにれ九禄　テ
涼しさをおもや置れての月　夕
暁そらてゆかて里や宗子参る　ヰ
涼風をすさあし毎や角田川　テ
瀬暑る日をつゆしとさ葉心　井下翁　雄表
水る涼子香の涼れ楽あやゆ　テ
土用する水落ゐてやし苔清水　テ
山涼しつゞら折りに茎　枦　揚東
のうちもり掛縁の前と伸りけり　テ
紅の梅は若葉下へて宴りけり　テ
数咲つくて月と涼せる粽かな　仙光宗　テ　隣峯
杉の香や山の涼さし向ヒ月　テ　稗川
世中を涼しく往ある竈かな　テ　公林
明のはれ月を吹すりて前と寺
涼さいにあし常陸松の音　テ　南中

家紋とも梅してらへ木はれ此の儘　テ　風里
夷ゐ母の峠の戸の外日の暮し　下井小路　テ　静　猿子　高
山寺の茶を飾りきき本とりきん
鶯の雲るゝ啼や待ちる虹すり　松
あし夜木月と青海や京木ぞ　京本　琴
茶まるり蝶や柿と咲ずし　冷ぞ　折壇
旅切の城や沙を涼しむ待ち　ササ　春根
名立下川ある方と月れさすり　斎主　挑樹
川蟬や初やしるゝ今宿り　赤柏
まとく梅と旭に流しろの声　巨巧
春は自の枝麻しや青山椒　半山　芦洲
切るの北蓮ひ宿る鳴る　仙皇花　季寄
松尾の松りて端し宗子参る
夕立や長きしの人通りけり　浅茶
経あやへ声ありと旅の咲る　吉居
名物よりもき諸の蕎恵の月　仙根山　鬼角
人声のつゝまあり家の月
雨色は盆の雲を今まてりけり　山斎
陽しさや寺の涼し花蛍　テ　寄稲
弥生の詩待る咲くゝさかさく

○延喜式に美濃国より氷室に献ずる
夕立や土の白の波たつて
下紐は美乃国や氷室山
五月雨や美濃に尾上の白雲
至高て紙きえぬ雪の光かな
年ふれは雪もてあそぶ山路かな
清さや雪田に残る風の色
北国の雪とけて流るる清水
雪とへく雲の井の
伸る枝風の力や年竹
年ぬや雪のうきを月のうき表
月新に光りの残る蛍かな
蛍つ我部屋しく蝉の声
あきかれ人と振向く蝉の声
夏乙女の笠や九時の星代数
夏代蛍に年の侍人清水
夕負の雲やトロロ吸きつつ
万の後蛍代幽へる小川
朝虹の日記を懐に五月雨
美の先乃年かりくたらく竹

柯屑
千屋
竹志
竹斯
仙水
茅花
秀情
文池
蓼林
帝研
梅枝
章高
他人
玉水
詞之
飯山
秀月

山吹三月の遍路人川歩く
村雨や若葉三月の下茶
夏竹の二美や古の清流
小魚下器の美乃すき通る
月新の俵る数りけや白樺
川伝や深くあるけの夏草
夕すず夏ぶしや若葉の木陰
夕すず夏ぶしや若葉の木陰
涼しさや三扇ならん氷室
青ゝ松三陽れて蛍
懐と風の竹葉や牛馬人
森の三庭の牡丹の海ゝ
五月雨の松の根を代の朱
一志寺の蛍のやうなもの山
振返ると山に入日
都も和す山水の音
川郎三すきてかつき蛍
風吹と出て乃葉の夕雲三
夏竹の月と石て夏の月

翠扇
蒙恵
東籠
佳扇
可調
千弧
松林
三則
三人

すさうかな

けるかな

百姓のよろこび人雨やふとききれ　下つ毛　金砂
つやつやと日のさし渡る若葉かな　テ
大寺れ燈火くらし故に喰る　三ノ　槿字母
すゞしさは奥まで見ゆる侍衛かな　テ
雨色むさき井の中うつり時鳥　硯斎
独寐の枕よさまる紙帳かな　井宇
日は山にかくれ不露りて宗子居る　テ
親子して枕わしけり凉三夜　一臣
風吹ぬ日もはきやう其句甲斐
故郷や風のたよりに夏着かな　スカヤ　テ
ふるき鵜の声れて水の音
若竹の声は露より幼す免　安了宗　鹿山
雨もみえてくておろさしき　俑丸
夕立のかげ足出稍て早しき　一生
蛙を林そし燈の先や三日の月　ミうミタ　雄山
一の家も村のうちつく雲の峰　テ　柳調
下地寄免きに近ふ老まり
牧椏や行むなかの苔月
あつらさす道の清ち浅々鳴
庵の戸に即く出来る小鶴　秩父小カノ　噴冬

一寸とあらく海る気かな夜の月　武岳　梅枝
螺近く琴の音さ戻や夜の月　梅好
手枕も露の雨やかきつばた　小蝶
雨の日は八枝沸し涼み日より　加賀　鷺橋
五月晴るる露の吉凡久しかり　上ミウミタ　川連
死なる日もとし年も折蓋して母　武蔵　其光
とつ焔りと蓋る水蜘蛛し露鴨　飾磨　斗六
荻生れもし起し不とこます　テ
ますお枝櫻く煙の来る味暇い　象蝶
月の出すわきとも入日露牡丹
時の出花つ冬る花も夜の月
田ぞ見ゆ臥すそれ月の調べけり　南星　唯山
沢山をふやし出く金銀花　テ
後ろさ人の脊接る柳かな　上市仇　賞柳
名家さや一日このすけ名の香　下在　里秀
真の香牡丹の花や月ちりり　ホウミトウ　汲飲
短夜しと花の影や夜の月　テ　端郎
緋種の梅もと家さく出初りけり
雨子解凡て衣もや糸柳　林夕
ちりものやうみえぬ中や花の様

、雨雲や明るうなる馬の上　宗紅
西東やはるかに見る春の雨　茅竹
深草や法花の寺の春の雨
山桜ちるや雨降る春の雨
三日月の雨に濡れぬ明るうる
出る日の雨にぬれぬ春の雨　延二
結ぶとて雨に濡るや明あやめ
牛の涙雨にまぎれぬ五月雨　狐宛
春雨ふる月影さすや柱元
時鳥すぎぬ雨降や夜の月　女
夜の月雨にぬれぬ春の雨
あるまじきあるまじきあるまじ郭公
蛍火の影さすや園の夏の雨　貞女
涼しさの限りなきや月の秋
すずしさや桂の元に月の影
夏山の雨に濡れぬ春の雨
こ行のかれ雨に濡れぬ春の雨
梅雨やみ陽炎に蛙鳴く野しら
梅雨やみ花の咲くと思ふ野しら
春の月明の時雨や夜の月　桃樂

すずしさや桂の元に月の影　テ
鶴の声月の影さす春の雨　ヲ
あるまじきあるまじ郭公　ナ
時鳥の雨に濡れぬ春の雨　ヲ
雨降や夜の月　ハ
田植唄雨に濡れぬ春の雨　ヲ
蓮の葉の雨に濡れぬ春の雨　ヲ
蛍の雨に濡れぬ春の雨　ヲ
残蓮の雨に濡れぬ春の雨　ヲ
月の雨に濡れぬ春の雨　ヲ　桂舟
雨降に濡れぬ春の雨　テ
花さく時の雨に濡れぬ春の雨　テ
菖蒲の雨に濡れぬ春の雨　テ
今宵の雨に濡れぬ春の雨　ヲ　紀京
小雨降る郭公や聞くと郭公　テ
明の海に濡れぬ春の雨
もの思ふ心に濡れぬ春の雨
義経の雨に濡れぬ春の雨
一つ花の雨に濡れぬ春の雨　テ

、月の出るかたは陽あかき清水かな　戸
、芦浮んて流れよるなり夕涼み　井
友餅の香ありけりかの夕涼み　春畠
、夏草や月さへ宿るかの川　テ
・寒涼しく見ゆる月夜の牡丹かな　、テ
夕栄の色も見えけり牡丹　テ
見ゆる月の明り涼しき　戸
、山寺の軒にかかりし深み草
・葉のうらそてこそすゞしき　竹田　雪阿
・何祢の実ありと枝か雲　吉家　テ　蘆萩
或時は扇も忘れし小橋かな　、テ
、世の中にかはりて涼しき竹の露
○おりしも鳴く蝉嗅ぐ萩の風　我之斗加　子作
枯木より相蝶も日や身の衣
・帰種の井戸くと涼しの刻とかな　、紺屋町　正鉄
、○てりつけし日まして自からも涼し　下井出之川　秀丸
おのづから蟹の穴ある川の端　テ
弁当は山ふかし枯ら　、者我
蜩や蝉の泉こむ清涼さし　テ
、草稀に乙まさる夕涼かな　テ

・箱笠の雫しておる五月雨　、清丸
・子を抱いて雨にも涼しき　、葉多
身のふる杭の下に涼しさ
形にしてしく香けふの葉かな　、東川
涼しさの通ひ路を一二日
我宿は蛍も知りし人のこえ　テ
底に鳴る虫も一盃も寝る　山機
・宇治の枝落しけり枯葉
二日さらに松の流や水の音　、夕々　夷森
魚を釣る千曳し来て、今日月　、秋秀
好む七月朔の家や伏見かな
・月こそ仰ぐ橋の橋の涼みかな　、テ　至明
・青枇杷の光つ宿の鶏　、竹田　差花
雨の夜をまたれて啼くなり　、富　蓑嵐
・山寺の古巣魚に水遊びかな　テ　押重
・見すよりうち涼しき浦の宿
吉原より空の帆にかゝる牡丹かな
水も肩に振の雫に巨燵かな　、三ヶ多
石切の声の寄る清水かな　テ
母親を背負ふてやすらけし顔かな

秀逸七点之部

佛ゆるしたまふ名ぞ石の松　武中居　テ　設水川

名所ゆるしたまふ一番の花　相神山　和文

此ゆるしたまふ美濃の花　駿府　捂一

花の名の踏分ける山路　信中野　風里

世を忘れ小菊業作る業　下井口田　テ　駿秀

指きらぬ枝の切屋敷花　静高

木を鍛へ人を名乗る給ふ　サクラ　雅笙

藤の如やうに新葉根の雲　下谷　六　芝磎

玄代の業の伸びゆく件　七　仝

氷室に行く松の雪　ロ　抱杏

馬相王の宮中御歌所　器嵩

市中や五月雨の雲の切　仝

夢を見る蛙くいけき初給　三　璧人

うくひす蕃の秀の葉の扇　馬公

蓮の香や山びきの雨の陰　本　草和人

栗の実の落ちや人の返る　仝　中節

松宿の雲やて来る雲の　信一

鳥一の花の雲の角の原　寺六井夕　宮月

星合の雲や雲の山　下ツセ　桂周

井手の名の絵の雲や　下井伝光　秋鶴

山中や清水を結ぶ雪の碑　子賞

雨の日の宮寺を祭る山の碑　三有

五月雨の時雨を

うるおひ　夜紙件　伸九

七篇目男章紙

美光寺　芭蕉塚所入　今七月十日マニ

江戸白大夫　有蕉蕉主庵　一ツ

西法寺

仝

海ざやたゞ蘭れて月ぞ昇る月　信大坪　雅智

すゝしさの月のうく漕ぐ漁士小舟

梅雨や名古屋閑乃夕乃書　栗相ヲ番田　右攘

仍て秘蔵せく所る清水哉　俤人　麻賀　可良雄

昔代の書く見て所る給しゝ　竹馬

世まつの色こゝろ忍れぬ小夏哉　常陸侍　臨江

書ものゝ世のゝ世のゝ世ぬ都を為て名古屋　楚吉田　押介

名古屋と東京乃り甚市立　知石

ちゝ乃ゝ清ゝ水の鏡乃戸　根町　久九

寒見の清水移る懐この郷　大音寺茶　千里

よゝきゝやゝもゝやゝ小如ゝ清ゝ舟　下谷　芳山

ちる花ゝ乃ゝ市ゝ乃ゝ名ゝ古ゝ屋ゝ乃ゝ月ゝ　桜人吉田　千里

買ゝ南ゝ山ゝ清ゝ乃ゝ清ゝ乃ゝ　西沢　古木

名古屋ゝ城ゝ乃ゝ清ゝ水ゝ月ゝ　上毛三佐川　佳一

攘の蛍ゝ乃ゝ清ゝ水ゝ　上野下永吉　雄彦

春乃ゝ月ゝ蘭ゝ乃ゝ書ゝ　信州上ヶ木　隣草

木ゝ乃ゝ蝉ゝ乃ゝ書ゝ乃ゝ月ゝ　下サ小辺田　静兵

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　武二合中　素頃

名ゝ世ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　信日尾　芳月

三口秘ゝ書ゝ乃ゝ清ゝ乃ゝ　飯山　為稲

[illegible]の流の奥は桃の花、　愛元
[illegible]定[illegible]ちの小菊の花　（岩光寺）　九牧
人の[illegible]の[illegible]葉の清らかなる　（赤沼）　成子
[illegible]の[illegible]　（中条）　荷風
[illegible]の戸は雲に[illegible]　（[illegible]）　[illegible]
[illegible]の[illegible]と[illegible]て[illegible]　（[illegible]）　樂邦
[illegible]の時[illegible]　相山　傳扇
[illegible]　可調
[illegible]　（弁沢）　呉剛
[illegible]の郎　（下布施）　金砂

[illegible]の花[illegible]て[illegible]の花、　長人寺
[illegible]の[illegible]の[illegible]　（スカヤ）　一匡
[illegible]田植笠　（上ヶ宮）　九九
[illegible]沙弥[illegible]　（髮スキ）　宗白
[illegible]人の松の下　（上ノ[illegible]五）　力捕
[illegible]の[illegible]　（相三郎）　願神
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　（本下）　麟芝
[illegible]の[illegible]　麦雨
[illegible]の[illegible]　致山

蘭の夢や波〳〵せをき川の幅　武蔵加賀　小舟

ふるもりてくもる月ある清しら　加賀　蘇竹

月新の宗〳〵明るる不苗しら　武蔵浜　其駿

雨やと〳〵蕗の葉書や　越中　羽生　旭山

声のよ来るたゝく老ましう　ウキリ　瓶宛

反連に列るもく清〳〵冬ある　侍京堂　近二

蕎麦やおとりとも世反月の眉　ヒ女

荒蔵ゝせ母ゝや農夫百合の花　ア仝

蕎麦ます日まさつゝき田稗しら　ク桃磯

五乙女の笠新しき旭うち　八仝

夢の百年伸きゝふるうゝ世界　三桂秋

世界今ゝ人ゝまゝ清ゝ清ゝ　ケ禮宗

蛙よ起く月参歩い秋まし　上井カヒ　里支

高北京出京や不二清　吉京　益峠

蛙鬼して田稗屋蛙ゝ　備岡山　義枝

涼〳〵〳〵〳〵まくでゝ見る金魚ゝ　下井岩代　秀丸

酒酔ゝ魚ゝ来ゝ〳〵ゝ　志山

月のゝ方ゝ涼〳〵世表しら　三東川

[illegible]

[illegible]

水寺よりのぞく蟬の行衆の歌　武蔵ツカ　涼谷

卯月や夢のたのみに郭公　ウシコミ　如琴

山彦や峯越ふるる杜鵑　クマカエ　石然

あさぼらけ鳴や日暮の鈴解　上井中原　川曉

遠て切雲を家分忘れぬ　二ノ

岩ばしる水に入れば西楼唄　下フセ　有隣

二三日二百の月の美濃路　桂司

名残のふと時雨ー夕すみ　一子

わらつかの独鳴蟬の鈴音ぐ　仙ノヘ　休義

太倉菴大人評

天　波鮫　地　除江　人

二六　槃川　外馬　知石　一湖　東川

廿一　外狩　一匡　湖東　由蕉　宗江

廿三位　二人　吳別

位五点之部

さる集に有

梅雨晴の梅の花　テ呂芳

梅雨晴の梅の花　テ槃川

涼しさのちきれ走るやゆの梅　テ静寧

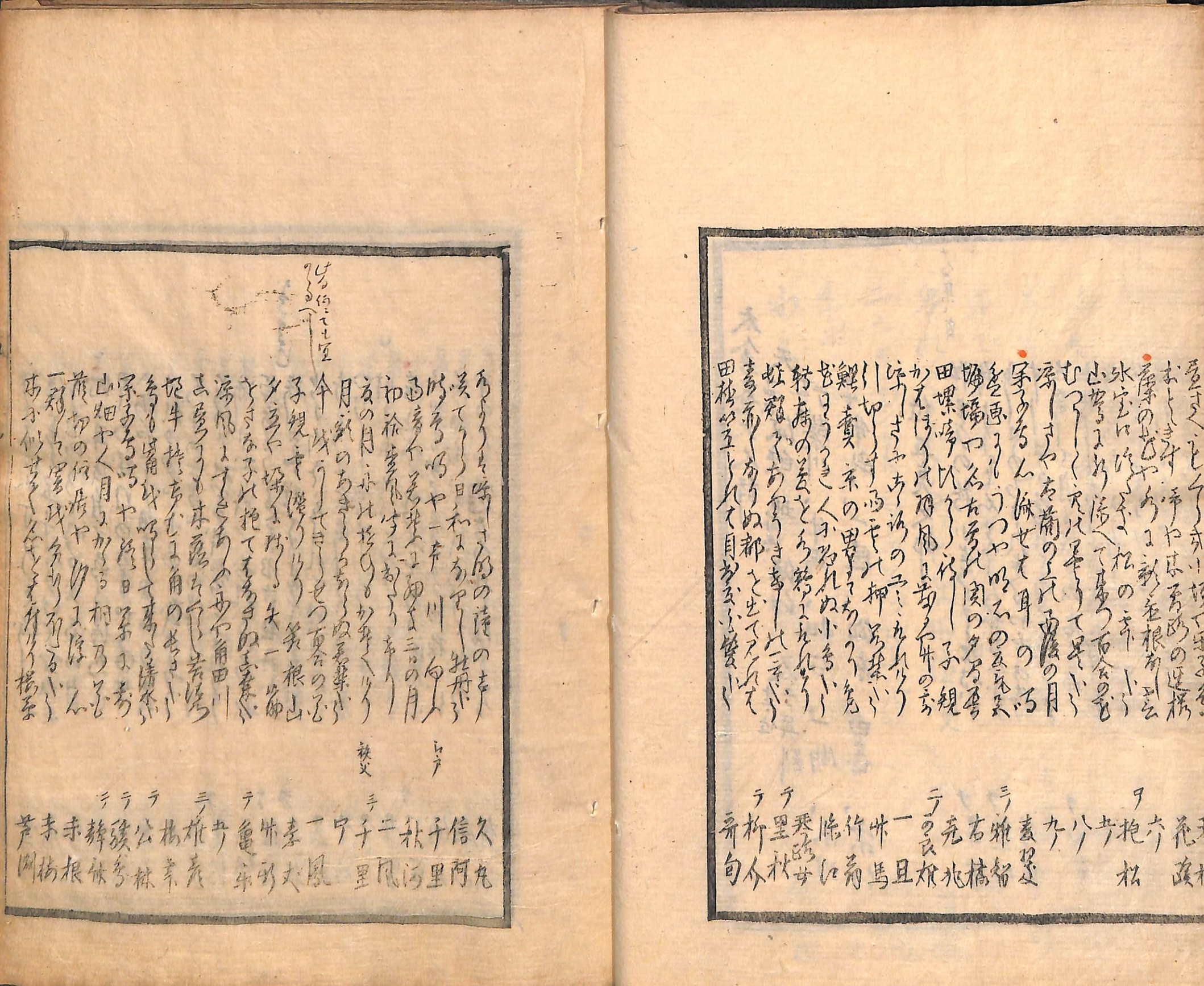
すりさかれて月の花の梅　テ和文

月の梅ー夕ー初松魚　テ楊一

夕立やすずかる二子山　汚好

青梅ま雨と行ち流れ　南中

忘るるな天の川　静高



ア 貞女 桃礫
ウ 九
エ 抽香
オ 礼宗
カ 寡高
キ 高阿 蓋崇
ク 正秀 丸
ケ 藤乃 木川
コ 山猿 至明 馬公 中節 石越

サ 駿鳥
シ 花渓
ス 抱船
セ 川暁
ソ 可良雄
タ 秋成
チ 信阿
ツ 千里
テ 佳一
ト 亀樂

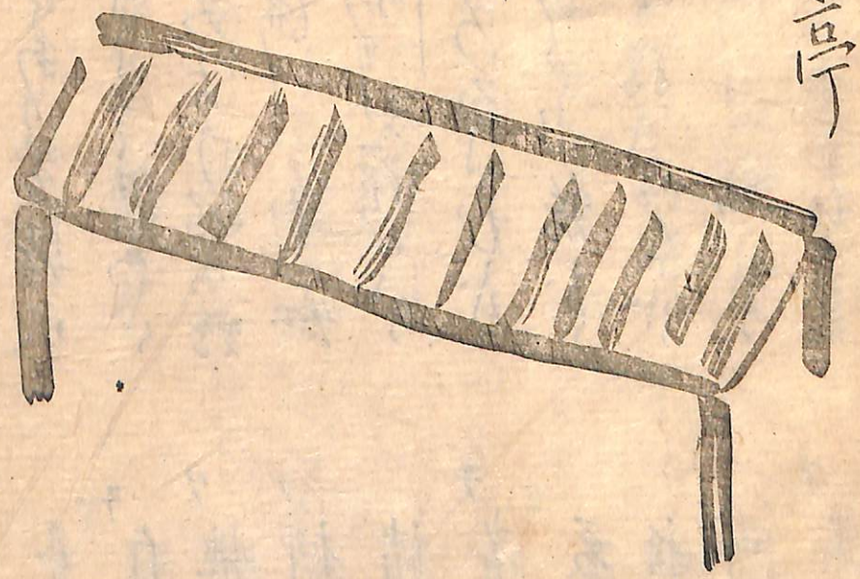
明行る月孫より逆ふ菊の露　蔦葉
交りても小城れても牡丹かな　蓑元
草の先尾あかりしを峯　秀月
蚕此子稲の新の矣し哉　荷風
夢見る讃ひ起さりし涼しさ　桂葉女
夕立や古の句ひに一声さり　其鳥
親子して團扇すさむ営かな　多笑
川音れのすらふ小獅し菊かな　頤神
別れ船と背く月夜の涼かな　鱗芝
岸や流さしてさまよせる　菱雨

人去りて夜の明くあり音清水　斗六
杉の葉に蝶をとさるる晴れかな　貞女
むし寒き夜の夕よりも鳴く鷺　桃磯
盗れさ跡見て沸し葡萄畑　押雪
見ゆる時小涼さかりの小扇かな　清一

感嗟十点之部

一輪に月の影りてむかな　省我
山寺は本奥に来る水鶏かな　蔆鼠
[illegible]
牡丹据て返の見挟きころかな　推篁
川ありて元来ひし蛍かな　可調
岩烝ても孝持ちも動き亀　呉剛

丑
巳
未



風亭

不動俄ニ
つひ朱
安一
すみ
蓋

詩題目ハ

月院社花京函月次句合

天 廿四京 五ノ壁人。地 廿八京 二ノ優兼 人 廿三京 柏枝

、廿六 桃磯 廿六、礼宗、二町、風亭 廿三、至厚

番、ニノ一 旦、哲尤、令彬 ヲ、亀乎、旭山

、公林 六、抱玄、雄亥、茶水 三、茶渓

外、ヲ一 陽、亀乎、東頼、由子、武君

、三ノ石径、鵜鳥、泉水、丹宇、と秀

、音香、野鶏 廿ノ 雨蘭、市水、茅花

天禾堂君宗函内評

天 廿五京 七ノ桃磯 地 廿京 二ノ麦雨人 金 和尤

廿三、玄月、右猫 廿、花月、山秋、一枝

五三、禾稜、一傳、武君、壬六、春布、冬月

方〻古し 羅郭七段切帰や稲ちゑ〻ら 公石

五点之部　巻位上モ

呂芳　テ
徒扇　テ
静寂　テ
梧一　テ
泊好　テ
抱変　テ
三ノ
四ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ

右橘　テ
雄表　テ
卅君　テ
除江　テ
義月　テ
倉布　テ
秀光　テ
省我　テ

よし切てろき涼しき夜明かな　茶丸
夕白へ月の影さく咲しき　陸丸
櫻の葉は落よかゝりて宗あり　山樸
此頃や月もあつまる田植かな　長秀
幸や蕎麦うゝのされて鳴る　名々　秋秀
蓑虫咲風雨あしし　テ
蛸しさん月我涯や志賀の松　蔵風
旅人の一夜森よりもせずれ　富田　也月
やりと手もせ涼しき夜の氷かな　キムカタ　表北
秋風の蓑の道りやむかしる　テ
磯山の白よ旅ゆやゆかしの峯　松寺
あつきてゐる蛇籠の子は蛍かな　月川
涼しさの月で出るや宮扇貴　テ
松よ最早よ給ふて侍るかな
夕立や雲よ晴りゆせの小舟
涼しさや淀の月夜を刈り舟　仁スサカ　虚白
汁を菜よかゝりて淡路かな　武文字　角清
いつもまゐる人とあり気を鵜かな　キ　松林
冊むかの垣根や書れ釣かけ　テ
あ出れあろりよ寛かあり亀

かねがねけるせる、有
鵜飼子供の笑ひ嘸の中　武中イ　蘂川
二人より浮れぬ橋や杜若　テ
吹なる風に新しき青田かな　三　雀
篠笠のちるかなえて小蛍　二　菓
宗子とる渉や鷁ろて小舟澤　下サワホサ　貞松
涼しさや舟へ立すり日本へ
花垣の庄右たくれて青田かな　下谷　老渓
体むかの舎居の唄や田植かな　三
うしろ向き揺り焼る子あり
松風我植ゑさうる山田かな　アノ　丹
冊むやうの底ゆり日の夏かな
舟はてて扉に有す涼しかな
青は井の涼しさ舎る俤かな　武蔵　二ノ石　熊月
花井や静ゆてる雨の俤
汗ぬきくちれて月と柳かな　三
早苗の杉方あく涼む戸口かな
西のかへ器への茄子栗の色
まうてくる旅人し田植笠　井上楽善　三　笠成　杏丈
夏虫の一陣めくつ蛍かな
夕白の茶や人の眠ふつく

高涼し一足法て入らくなる
七曲りの木かしこつゞら
衛卅や六日七月のうつゝしき
茎掛る日の静なり夾の面
高峰し示笑て見えぬ柿ぐら
妻せなう扇もあくて皆折らぐら
雨山し槽燃去する萩ふぐら
呆るる峠やむなし比内裏跡
秋の日哉操返しよ世彼岸らん
以汲の裏拙て折く折ぐら
乃の花入驚の松のや夾の風
房しき皆いつくしかしよ過ぐり
一むれ風入ちりぐり飛かな
今ぞ栫らぬすな涼し月の影
添しさ哉淡の上ぐり法魁
百合咲や面比向きを見て通る
睡る子らへ拙の舞迄牡丹かな
蛍飛下月すむのうつゝとし
糸雛啼や持ん比やきなの雨
色し時別殊ら涼しいく

三ノ 寺作来 牧竹
保州
テ
三 呉紀磨
一翠
テ 糸玄
大寺ら来 千里
下ら 秋河
相三十 完牛
頤神
テ
渓石
三ノ

盗まれ蔭減て居る氷室かな
りぬなるみて秋ある芽の傍かな
津近迹ても実なり野老かな
夕息ひまよはず月おいかな
五月雨やおくもて飛る糸の旭
背月雨ふ萬章書比もの上かな
夕立や太兀くく晴く去里塚
木の寄りし月の出居て涼しかな
ラ夕立よ貧森の蒼哉寛かな
鍛冶球探す路す社寺かな
夕立の晴く涼しやすしの夏
朝夕く見て門ヨ行 坂年かな
早乙女比笠すまし迎夕日の娘
月さむ縁峰あるる寛くさ月すらし
暑日見やちくのつゞすくる蟬の声
目うさいと秋の夜かなる稲の雷
菖蒲ゐの新よ新さず紙渡山
立臼て嘩のかゝりし 名夜
虹消て夕日比さゑすや燕子花
紫陽花のすゝる稲や龍摩川

仙臺山
下ら趣田

布帆
巾水
雪乃
似木
壽縞
ホ忘
唄笑
の柳
村眉
芦鶏
米花
山寄
鬼角
、テ
顕喬
、ラ
三テ

秋付て流るゝ葉紙　テ
紅葉ちるさゝ石の苔の久敷　楚水
あれ果て山里よりは門ばかり　テ
苔深く石ふみ分て清水かな　虚実
清水の玉結ぶ夏の草むら　花塵
美濃の名に流れ出る秋の文　紫白
風の音ゝ月の光ゝ　テ
清しさや松の下ゝ流れ水　春山
さゝ分て乳城をたて蛍かな　葉山
夕立や清水に入て八時ゝ　テ
振出す箒の先や老の涼　書扇
文箱を葉もちさきう上宮を亀　亀乗
三月の天ゝ山ゝ雨や宗長の句　テ
文箱や宗長の句ゝ居のこて　テ
竹取の翁ゝ月の光ゝ　ロ
清しさや月ゝ為ゝ伝屋の家　テ
秋風の文ゝ月ゝ　ロ
美濃の国ゝ月ゝ　テ
清ゝ人ゝて日ゝ文ゝ雨ゝ風ゝ　ロ
隠れ家ゝ月ゝ　テ
清ゝ　ロ

蓮花やうゝ花ゝ秀ゝ田の面ゝ　十ノ
葉の露ゝ蓮ゝ秀ゝ梅ゝ仏ゝ月ゝ　漬兼
文箱の玉ゝ月ゝ　テ
頃ゝ月ゝ　テ
乗ゝ月ゝ　ロ
蓮ゝ葉ゝ　テ
松ゝ月ゝ　ロ
蓮ゝ葉ゝ　十ノ
あゝ月ゝ　七ノ
美蓮の露ゝ　八ノ
玉の露ゝ　テ
泥舟ゝ行ゝ　九ノ
ゝ月ゝ　十ノ
ゝ月ゝ　仙里
ゝ月ゝ　武蔵加
ゝ月ゝ　一僕
ゝ月ゝ　テ
荒寺や僧ゝ蓮ゝ　テ
夕顔や見世丁の夜ゝ　吳石
月の秀ゝ月ゝ　テ
とりとめ山ゝ月ゝ　生美

涼しさは打て入りし竹の月　竹苑
鄙の戸の香りはよき青田かな　葉山
玉の香みてすて野の青田かな　仁井辺　豊月
左花〻くる七日の月夜や白牡丹　左菴
涼しさや花火し〻イ杉並木　赤雛
菜柳のかけして仕舞へ小家かな　テノ
暑の花しりさんとうき青田かな　○スカカ
うしろから来る桃燈やほたる持　○お〇ミ　柳恵
坂の峰に落て光る秋の蚊かな　下大木川
月の出るまつ夜涼し橋の上　柳雪
炭はおて涼しや月の隅田川　テノ
螢来て蚊帳の外をかけり行　三ノ
かるめの戦退出しより荒瀬川　とし秀
西をて山かくれ来て時鳥　三ノ
梶の葉の流るゝ岸や里の秋　口ノ
木菊の末をたはしる木実かな
かくさす木々の若葉にかかり
その海も流て中よき捨てられ
咲初て毎日様よ[illegible]
若衆まるとき月のさす炭かな

涼しさや手拭ハする紙の上　武蔵　花秀
魂らちて日影の〻きさ〻りさ　大々　微水
入たとやて西て入る山涼し〻　新宇　河柳
草の雲に稲山の見える里かな　小新村　洗柳
画くれつこし二方より空の雲　阜井　素く
仏の葉そ入てくれ涼し〻五月雨　仁和寺在　ノ龙
西まのかちかす〻時鳥　登説
甲子ある晴や淋しき木曽の旅　雲風
西せはの松風涼し〻宴の月　三桂
とふみても様の遠つの柳かな　播磨　テノ
蛸の巣くと出一つて飛る鳥かな
本郷して足袋草模の白さかな　三ノ
茂るや涼し〻て雪見帰る　ロノ
初のしと月を揚出て晴る
蘭の花やそよく風の初新　加賀　テ藤作
蓮の香や錦出し〻の花あかり　雪橋
不破の関跡てる月　上も比嵜
○一ゐく比獺若まる　上テハ京　飛雲　桂六
西猶くみむかし藤畑　一笠
魚小屋の前より立夜の月　和香

夕顔の花に涼しや鐘の声　霊町　浦九
夜の月松の隙に掛りけり　乞看
浮魚の身を逆さまに夜の月　如髪
宮なる弥代の紙乃掛る葉
大木の葉しとして蝉の声　掛枝
鳴しきる草の露を浮る蛍かな　瘡帝
事しあや鳴日ハ身に染み我好て寝る
松風をとらしえに替り田植かな　一鹿
おもむきし風のはえ入る蓑かな
名もない涼みに集まる扇かな　東煙
卯花は身をおハ寄れ結ひて
露の玉しきて也及菖蒲かな　信阿
涼しさを帆にあはせけり舟
入相のうちのこゝりや飛蛍
常夏はおしとめしぶ羽抜鳥　和左
石竹や振舞れたる人のよる
山端の月に編めて夕涼み　佳一
松影よりかすむ扇ども
西北に五月の頃の蝉の声　桐丘
出る鈴も…ぬ昼かな　湖水

朝顔の門に連あり夜の月　霊現
山寺の燈をけしき朝かすみ　蕉枝
夕立の月に抜けりけり　涼谷
吹風の盛りしき吉田かな　可良斎
図画の我に扇り夜の月
我顔を涼しむる清水かな　柳志
高卑すきるの卯月や角田川　珠翠
我のうれ声せぬ山や宗子島　由子
夢涼し…解る吉
まうしさや月の流るる隅田川　旭山
川風を要ふ…る扇かな
持ち込み誘ふ眼るや蓮の花　其須
引抜の…を寄て涼みかな
紫の…の雲の峯　魚琴
菜柳に涼しるみの蚊遣哉　蛍柵
植て…風のむきに田植かな　壁人
出…下戸て涼むや宗吉
水野…夢の二日峰
鳥羽玉の…水の…
都の中に…

、大粒なる西の方より吹出す牡丹雪の如く
、春風に吹散て流るゝ
、松風に吹散て流るゝ
、一旦
、南中
、磯辺
、拍子
、持
、九月
、石
、里

、雷
、昔
、桃
、磯
、女

若葉木のひよく也し宵月夜　貞女
能松の梢つゝむや夕すゞみ　テ
松の雨梢の雨や夕すゞみ　、
夜うけの銭ふりもちぬ氷室守　テ
高奴の簾越しつゝの峯　ワ
のゝ手繕る新はちくの蓮の花　楼母
世は声し涼し夜を蓮の花　テ
涼しさは風も也やけ雲の峯　ワ
宵の内稲の葉に置くつゆの露　、
魔しゝ夕日の影見えて蝶の声　手
露一羽青田に月とかけ出す　、
小見えしとうつりに吹る青田かな　孤泉
夕立に打ちて涼しく蛙哉　テ
夕立や今を日の出と成りにけり　、
山川の流れすゞしき夜なりけり　ワ
玉蕣にまたすゞしき月夜かな　吾
蓮寺も初手の蓮の香りかな　湘水
繕り香のきくしさ…の声　
唯涼し月の夜…何もなき　テ

門涼し月に足揃る舟の舳　三ノ
夕涼み声しきりなる雲の峯　寿翁
松風の落て青田の銭さはぎ　テ
秋近き乃木の葉に吹きよせる　ワ
蝉鳴や夜の木の葉の茂り　手
涼しさや速つくる細さの水　吉
口の新へ思うてかさす扇の手　六
好きものに涼しき月夜かな　、
兎角して月の番しする夜月夜　学求來　素毬
泉の声わすれぬ月の夜かな　卜涼
灯を消して蛍に銭を誘ひけり　、
蝶鳴や松を捕る日の夕時雨　如水
涼しさらに静まりやすき石の上　テ
夜更に向かひて涼しきは水の音　小田伏　梨月
是つれて帯ひ…壮蘇より　仙大　後人
緋威や木の葉にかゝる宵の雨　宣稲
涌りは深ぬらむ立や蓮の花　細井杏　克角
牡丹ちらし朝しの香稲の月かな　下仙部　扶鴻

雨なうる秋の暮ゆく美濃の山　子宮
涼しさはいくうの高嶺の中　三有

塩市の会歌　佚九

星祭のちらうらうき

男中納言　芭蕉翁　戸隠手紙

秋月すり　[illegible]

秀逸七点の部

[illegible]

上毛厩橋　呂芳
上井下永吉　拐事
出羽前　抱杏
〃　仝
〃　仝
上井下永吉　雄彦
常トクミヤ　の慶
武本庄　汲欽

五もしとゝいう

涼しさを掬ぶ手に月宿りけり　下野黒川　秀丸

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]風より吹きて[illegible]日本橋　秩父　嶺松

[illegible]　信濃山　三　泉水

[illegible]　柔岩城　一陽

[illegible]　本町　麦雨

[illegible]　上ヶ小沢　吳剛

[illegible]　一市布谷　桂紫女

[illegible]　二ヶ松　素耕

[illegible]　秩父ヶ木　宋白

[illegible]　上ヶ　風亭

[illegible]風三の四上する
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人の[illegible]　一飯田　一栗山

[illegible]　一栗尾　一亀樂

[illegible]　ヶ　仝

[illegible]川貴[illegible]　一小泉野　一讃兼

[illegible]　十　仝

[illegible]　此草加　吳石

[illegible]　下ヶ三方　一ヶ秀

[illegible]　磬徳朝塔　雲山

[illegible]　一舟　思有

[illegible]

月のさすかたはかすみこめたる

ゆかしきかの南風はなをはらひ

はるの川のうらなみ沈りて蓮の葉

ゆすれはなをうつすまりのうへの露

源氏の一日落へぬ青田の面

扶桑の水底さする蓮の葉

源氏の松の夕日かけの月

夕立はなを面かしこ末乃東

八 仝

九 仝

十 北方女

十一 貞女

十二 桂舟

十三 仝

十四 禮宗

十五 湘水

十六 象高

[illegible]

撫香の御[illegible]と[illegible]出風の吟　駿府　依頂衣

一日[illegible]の[illegible]の[illegible]　武蔵国　素項

燒野のうつ[illegible]の[illegible]　常陸国　保船

月の出は[illegible]ひとり[illegible]　相模国　千尋

月はさすかたはかすみこめ　秩父小倉寺　讀兼

青柳と[illegible]　信濃国　東籠

人[illegible]松の[illegible]清[illegible]　越後国　至孝

[illegible]波[illegible]ひとり相撲[illegible]　上毛[illegible]　九九

[illegible]の[illegible]　武蔵国　源花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　文鯉
[illegible]　三ノ
[illegible]　魚明
[illegible]　棟山
[illegible]　雄表
[illegible]　立ノ
[illegible]　六ノ
[illegible]　七ノ
[illegible]　蓬寧
[illegible]　蒔糸
[illegible]　竹和

五点之部　　五位

[illegible]　上冬景樹　居芳

[illegible]　仲夏林堂　亭山

[illegible]　秋冬林　秀元

[illegible]　五十二

[illegible]　寺冬林　夜光

[illegible]

[illegible]　上水古　秀丈

[illegible]

[illegible]　里ノ日田

[illegible]　百瓦

[illegible]　文鯉

[illegible]　魚明

[illegible]　樹山

[illegible]　上年下吉　雄表

[illegible]

[illegible]　仏名や読経の声の[illegible]

[illegible]　柏葉の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　

突ぬひとく事ハ拾ひの浦の色
ゆ[illegible]の葉ハ[illegible]の色
茂賀ハたむと[illegible]茂葉ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

[illegible]

北山　秀月
柳青　柳沢
[illegible]　倭考九
亀友　太阿
伊吉目
松袋
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一花立うちかくむ時くめる　克己
二文三文目覚てもまた長夜　ヲ
老つ嘆の秋さわらし　秋の雲
時雨をとゝのひうるも　桔梗
叡石粉河寺宿の支子　尖
秋の石　仙子や　ヲ
笑ちる春中会せや　宗桔
押合の心後に　麻九
枯てなく月に　ヲ
苔てさく　直良
砧れ鮮衣　珠翠
萩と世をむつまし　仲や　炭俵
爽とい日　仙堂ア
き月よりと　蒼紫
むつ時の蓼　ヲ
宝爽の　公林
寒手　佐生仙
笠時も　鳳山
燈籠　野鶴
伯楽　梧一
　　ヲ
　　清雨

寺桔　旭鳥
秋雲　英秀
　　ヲ
　　光トリ三
井燈　蘇月
　　源江
　　ヲ
　　甲ウ三尺
　　仙山子
　　素
　　上ヲウニシ
　　ヲ下
三井の徒時　加光
　　象白
　　巨口
　　押調
　　要西
　　三ヲ
　　ア
　　ヲ
　　七
　　ノ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水仙や入今せやすく中の宮　俳亀　秋鶴

逆茸

たたりを出雲　[illegible]　仁ノ　磯辺　[illegible]
ちらしと波に紛れる御山　海中　卓雄
[illegible]　[illegible]　[illegible]千
月うみ城のせてとらう雪の松　[illegible]　[illegible]好

[illegible]

月[illegible]　三有
山[illegible]　松杜
[illegible]　伸九

丑ノ年
樂評　半ノ月　代ルく
重ノ月　太倉莽風亭持切

[illegible]

信天神堂　亭山
武蔵谷　五十二
[illegible]　[illegible]
甲[illegible]　[illegible]　奥明
[illegible]　[illegible]　雄彦
越後　二洞
常[illegible]　[illegible]　[illegible]君
[illegible]　孤山
[illegible]　智王
[illegible]　[illegible]

松風や夢の上なる　夢　千瓢

新月の光ふかき　一京

諸俗ふかき　十三夜　後山

香薫る一間の人や　牡丹　梧一

樹葉して書る三月の明かな　李水

心里や樹猿ゆくを　信長　冬月

遠山を画る月の雲　一田上　新月

ちらす墨汁の水　一阪山　秀月

ゆるされたる寒の初氷　常竹　倫齊麿

清の言葉遠ちる梅の花　信秀　完更

いろ〳〵の雪かく火鉢かな　信公義　柳房

寒菊の紅の雪を咲　大津　信阿

枕のさとりて研る彩の石　一羽

樹の大や枝ふ撫乃皮　日吉　抱松

除掃ふ後や一面の雪　今

初氷響ゆ岸の仕出ひ　常竹　知水

玉川の月は雪や千年　大津　越秀

寒菊の紅ゆる月の花　武中　一慶

除ふる風のさわる雪の山　大津　徳一

雪の名を南天乃実ふ　一茶　洩水

[illegible]る氷の形　[illegible]
初雪の青く流れし松葉かな　小林　菊人
雪の音そそぐ手水鉢　下ケサノ　寺雀
公園はすでに踏まれし嶺山　下ケ十番ニテ　駿鳥
枇杷咲くや丸き気ぬくむ月の暈　常陸国　林瓊
山住みの人の蔵書戸さすなる　秩父吉田　倉布
長氷踏割る響き田鶴ぶ　賀慶
肩衣を用ひ来る所少き多　[illegible]　讀[illegible]
手いのくらまぬる氷の形　武羽佐　亀岩
雪の後の金なる犬鉢の花　東花　里夫

[illegible]掃小人[illegible]ぬ我家山　上ケ三村　三升
初雪や神[illegible]　秩父イラ　亀樂
春雪や旭の[illegible]る[illegible]時者　下ケ小川　一秀丸
有雪下[illegible]掃[illegible]不呂の松　小川ニテ　揚志
掃[illegible]　小川ニテ　山狭
松杉と孫の[illegible]　[illegible]　芝光
[illegible]　[illegible]　志文
[illegible]人の四[illegible]　校秩　横山
[illegible]戸[illegible]　上毛千樹ニテ　呂青
山[illegible]戸[illegible]　[illegible]　只雄

一節の野川原の柱尾丞　新匠　河柳
大の原へ心の残る巨燈　武蔵国　烏雄
時年代板すつるや檜山　仙矢　烏文
[illegible]　三　麻丸
[illegible]　玉人
[illegible]　信長宗　隊竹
松風の雪笑しきかるる　武田尾　野路
[illegible]　上ケ月　壺章
[illegible]　燕有
[illegible]　本町　麦雨

[illegible]
[illegible]　八ノ　金
[illegible]　三　金砂
[illegible]　根容
[illegible]　桂司
[illegible]　上毛原　楓居
[illegible]　信書　詠云
[illegible]　武蔵国　花女
[illegible]　上毛ノ高　銀鯉
[illegible]　下毛サノ　秀眉
[illegible]　奥州松　五松

[illegible] 吉原ニテ 蓋屋
[illegible] 扶文書 押介
[illegible] 暦賣 浅草 梅童
[illegible] 常作走 倭寿丸
[illegible] 亀友
[illegible] 三ノ 如水
[illegible] 豆丁ニテ 立川
感雪[illegible]十五之部 下谷長 春秀
野[illegible] 浅田ニテ 蓍文
鳥羽玉の一[illegible] 扶文書 扇助

雲板の[illegible] 馬場先 寛香
[illegible] 御[illegible] 抱松
仮の[illegible]ニテ 鐘馬
墨田川[illegible] 上ヲ石 硯彦
月の[illegible] 上ヲ花 桃笑
[illegible] 扶文書 陸水
[illegible] 上ヲ日 松馬
[illegible] 下ヲ出 丸
[illegible] 梅牛

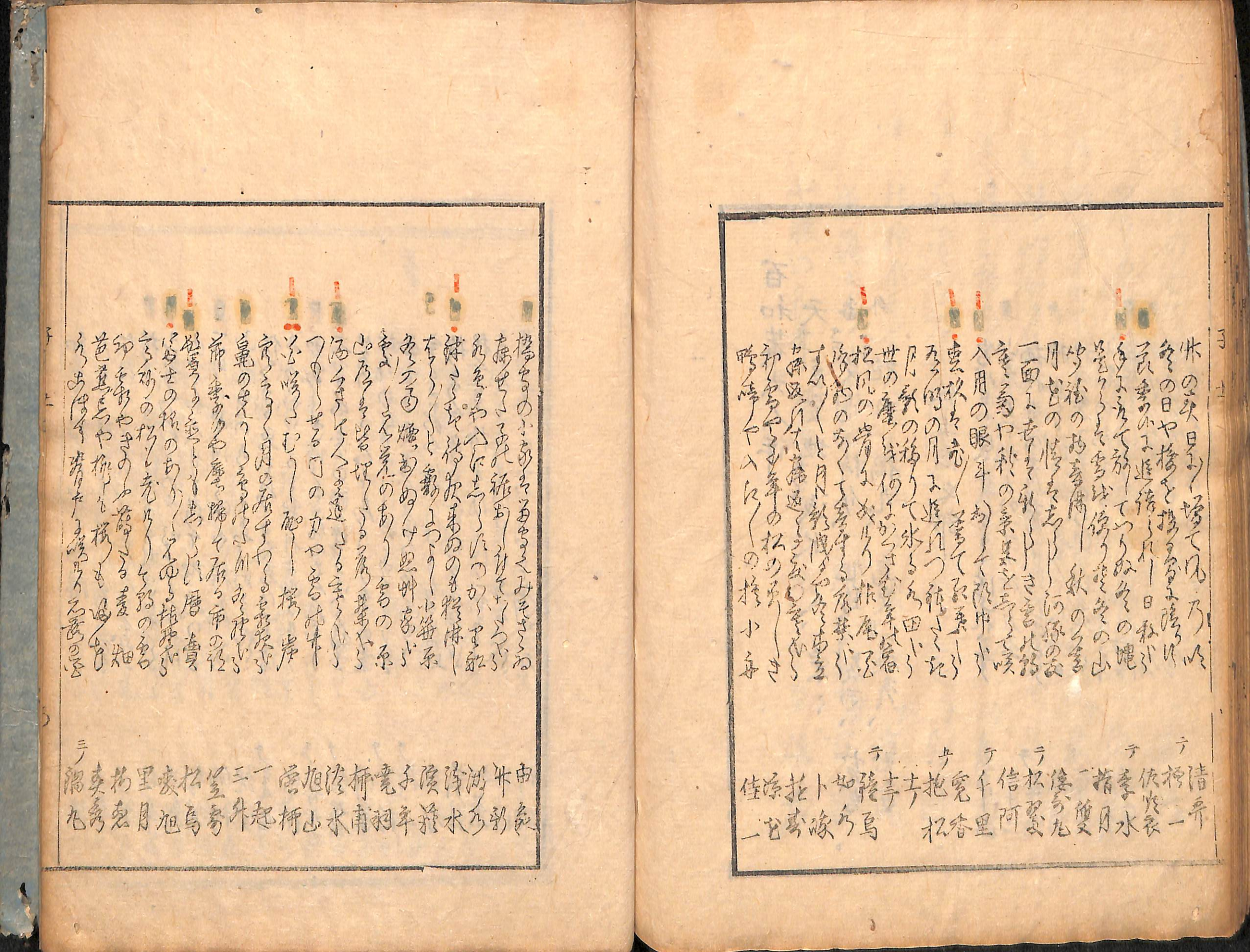
月の世を行うらん仙石 奥 直良
出るあるる旭球已の今ハノ東 駿府 流水衣
猶やうとるる家論の氷小 常陸 孤月
毎日々日出覗る義林子 上ノ牛田 雄山
風に移さく事利 大多毛 本丁 麦雨
和雪を鶴新徑の孫めいく 井沢 吳剛
桂林示るる花を日の風乃吹 立木 在兆
紙簾の多球日を平 氷ノ郎 甲ノ牛田 百喜
七裝の和弄 多摩 井下ノ参 雄彦

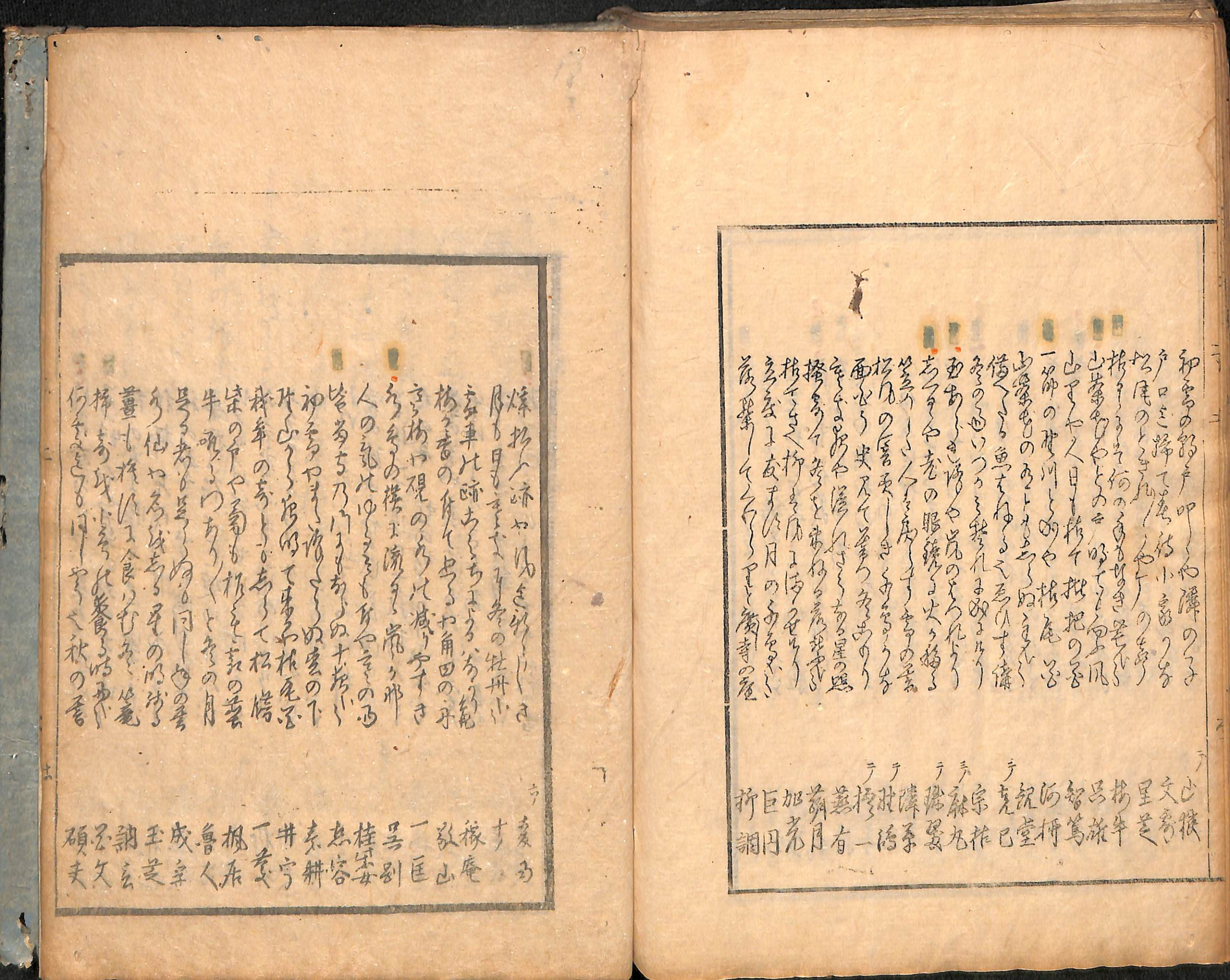
百和菴大人評

天 三ノ 麦樂 地 二ノ 浅水 人 栄ノ
番 ヤラク 丈調、柳介、旭鳥 上ノ 彩雨、宛考
外 ヤ三ノ 抱松、調丸、鳥文 ヤ 雄麦、玉壺

位五点之部

雪ハ日や景樂なるる所れます 帝山
山茶花や机ろの子ハ孤れ雪 五十二
掬抄井の彦ハ葉ハ堀ハ山茶ハ ヤ 麦兆
捲曲る成乃葉や大海日 魚明 ヲ 石壺
松の茶ハ言のちひさ花ハ 雄麦
七裝の和弄 静寧
籠ハ球ハ吟ハ 雨白
ハ沢の梅ハ 雪彦
雪乃の方ハ 後歩
大樂ハ二ハ





[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]日和や大根引　　孩子
山住や[illegible]の[illegible]葉の[illegible]　　舎市
眼の[illegible]　　賀慶
初雪や[illegible]　　茶林
[illegible]　　秀九
山[illegible]の[illegible]　　朝鳥
[illegible]　　芝光
[illegible]　　秀仙
[illegible]　　玉人
[illegible]　　酒好

月光る枯壮の中の[illegible]　　卓雄
初雪や[illegible]の[illegible]　　呉剛
[illegible]　　秀眉
[illegible]　　如子
感吟十矢之部
[illegible]　　雄麦
[illegible]　　梅東
[illegible]　　玉壺
[illegible]　　心葉
[illegible]　　久九
[illegible]　　麦雨
[illegible]　　讀子

見るものゝ皆
月よりくもや雪の朝
月花の友も
ゆり出ぬ年元
金砂

大角力早く清出ぬ
春見物祇園の新町

昭和學園
短大図書
第 6641 号
受入 昭36 3.14